

**平成29（2017）年度
研究、教育、社会・学会（研究会）活動報告書**

1. 研究（本年度のみ）

教員氏名 (ローマ字)	佐藤健司 Kenji Sato	職 位	教授	学 位	修士(商学)
専門分野	経営学、経営管理論、人的資源管理論				
研究課題	テーマ	① 「モチベーション理論に基づく人的資源管理」 ② 「HRM と人間関係」			
	概要	① 近年、HRM と高業績の媒介過程としてモチベーションへの注目が高まっている。そこで、モチベーションの具体的内容を調査したうえで、その二面性についての分析を行う。 ② HRM において人間関係の果たす役割は大きい。そこで、現代のHRM における人間関係の意義について分析する。			
本年度 研究業績	研究費	総額： 25 万 円 内訳：個人研究費 25 万 円 / 科学研究費 円 企業補助金 円 / その他 円			
	研究テーマ	① 「モチベーション理論に基づく人的資源管理」 ② 「HRM と人間関係」			
	経過と到達点	① モチベーションの具体的調査と二面性の分析。なお、この内容は、2018 年度の労務理論学会統一論題で報告する。 ② 歴史と現代の両面から分析を行い、関連業績を 2 本公表した。			

(1) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
①単著書				
②共著書				
③単訳書				
④共訳書				

(2) 論文 等

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
⑤査読付 論文					

⑥紀要論文	「SHRM の理論的検討—ベスト・プラクティス・アプローチとコンティンジェンシー・アプローチ」	2017年	単著	『京都経済短期大学論集』第25巻第2号	人間関係論とベスト・プラクティス・アプローチの類似点に注目し、このアプローチの本質を整理した。
⑦研究ノート	「HRM におけるハーバード・モデルとミシガン・モデルの分析」	2017年	単著	『京都経済短期大学論集』第25巻第2号	ハーバード・モデルとミシガン・モデルを分析することによって、今日の HRM の課題を抽出することが目的である。
⑧翻訳					
⑨資料					
⑩調査報告					
⑪被引用 (他文献)					

(3) 第三者（文部科学省、経営団体、企業 等）により認証された研究

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑫単独研究				
⑬共同研究 (代表)				
⑭共同研究 (代表以外)				

2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	経営学総論・人的資源管理論・経営英書 講読	経営管理論・マネジメント史
	演習	基礎ゼミ・ゼミⅡ	ゼミⅠ・ゼミⅢ
	実習		
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義科目	科目共通で心掛けていることは、学生が置かれているそれぞれのシチュエーションに応じながら講義を行い、学生が、各科目の対象を「考える」習慣を身につけることを重視している。	
	◆ 演習科目	基礎ゼミでは、大学の学習にとって、必要不可欠な項目を網羅している。ゼミでは、ゼミで学習したことを、実際に応用してみることに力を入れている。	
	実習科目		
	◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）		

3. 社会・学会（研究会）活動 等（本年度のみ）

(1) 社会活動

分 類		活動・講演の概要
①地域研究活動	代表	
	理事	
	幹事	
②講演（教育機関・企業等）	学外	
	学内	
③シンポジウム等の企画 (教授会承認事項/1本)		

(2) 学会（研究会）活動

分 類		活動・講演の概要（時期）
④学会運営	代表	
	理事	
	幹事	労務理論学会第9期・編集委員(2015.6.6-2018.6.5)
⑤学会報告		
⑥司会・コメンテーター		
⑦第三者認証研究会 運営		
⑧第三者認証研究会 報告		
⑨一般研究会 運営		
⑩一般研究会 報告		
⑪本学経営情報学会 報告		

4. 特記事項（本年度のみ）

・脳梗塞により、入院・リハビリ(2018年1月10日～2月27日)
